

● 中古住宅、約 85%が取引前後にリフォーム実施 ～アットホーム調べ～

アットホームは7月9日、「中古物件の売り手と買い手のキモチ調査」をまとめた。調査対象は、5年以内に首都圏（東京・神奈川・埼玉・千葉）の自宅を売却した295人と、中古住宅を購入した386人。購入者、売却者の主な回答は以下の通り。

【購入者】

- ・ 購入時に「新築と迷った」人は35.8%（半数以上が迷わずに中古を購入）
- ・ 買いの理由は「立地」が34.7%で最も多い
- ・ 購入後にリフォームした人は50.5%、リフォーム済み物件を購入した人は33.9%（約85%の住宅でリフォームを実施）
- ・ 「良い買い物」だったとした人は69.7%とほぼ7割
- ・ 「税金や権利関係」の知識があれば良かったと回答とした人は39.6%
- ・ 「リフォーム」の知識があれば良かったと回答した人は27.5%
- ・ 平均購入額は2709万円
- ・ 平均築年数は18年

【売却者】

- ・ 売却後に住んでいる住宅は「持ち家マンション」が45.7%、「持ち家一戸建て」が33.6%と8割弱が持ち家で、賃貸住宅は少数派。
- ・ 売却理由は「もっと良い住宅へ住み替えしたかったから」が35.3%、「もっと良い場所へ住み替えしたかった」が29.2%、「家族が減って広い家が必要なくなったから」が11.5%
- ・ 自宅売却の際に「寂しく感じた」人は44.1%
(3人に1人が売却後に売却した自宅を見に行った)
- ・ 将来の自宅売却を予定して購入した人は22%
- ・ 自分で査定価格を調べた人は40%
- ・ 売却額に満足を得た人は37.6%
- ・ 売却額の平均2536万円（購入時の平均価格は3459万円、キャピタルロス率は26.7%）
- ・ 平均居住年数は13年

【全体】

- ・ ホームインスペクション（住宅診断）を知っている人は16.5%
- ・ 瑕疵保険を知っている人は26.7%

[中古物件の“売り手”と“買い手”のキモチ調査：アットホーム](#)